

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	市街地の適正な利用			総合計画コード	511
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	都市建設部(道路整備課)、市民環境部(産業振興課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	まちの限られた土地資源が有効に分配され、鉄道駅周辺など公共交通機関の利便性の高い地域を中心に市街地がまとまり、住宅系、商業・業務系、工業系のそれぞれの土地利用が適正に行われ、健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を行えるまちとなっている。				
施策概要	市街化区域において、住宅系利用では地域に応じた良好な住環境を維持し、秩序ある土地・建物の利用を図る。また、住宅地整備が進む旧暫定逆線引き地区では、都市農地を生かした良好な住環境の形成と区画道路の整備を進める。商業・業務系利用では、駅周辺の回遊性の創出の促進のほか、国道254号バイパス周辺や大規模跡地において、市全体もしくは地域の活性化に資する有効な土地利用を誘導する。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 16 年度	～ H 37 年度
		朝霞市みどりの基本計画		H 12 年度	～ H 37 年度
		朝霞市景観計画		H 28 年度	～ H 年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	・都市計画審議会を開催した(5回)。 ・市道や農道の改良工事を行った。 ・市道の舗装復旧工事を行った。 ・土地の買収および基金からの繰戻しを実施した。 ・商店街の活性化の推進事業及び街路灯の維持管理に対し補助金を助成した。					
H28年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	日常生活を安全安心に暮らしていくため、道路用地の買収、工事および街路灯の維持管理の行った。				
	子育てが しやすいまち	子どもたちがのびのびと成長し、学び、遊べる良好な環境を整えるため、道路の改修や改良、また段差のない安全な通行ができた。				
	つながりのある 元気なまち	人々が交流を図れるよう、駅前広場でのアートマルシェやストリートライブ、また道路をステージに見立てた市民祭りの開催した。				
	自然・環境に 恵まれたまち	朝霞市みどりの基本計画に基づき、生産緑地の指定など将来を見据えた緑地やみどりの保全に努めた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		557,601	—	—	—	—

指標名 (説明)		単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
			目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
			実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
①	区画道路整備延長(整備 延長m)(整備率)	m (%)	574 (16)	891 (25)	1,208 (33)	1,525 (42)	1,845 (51)
	(説明) 旧暫定逆線引き地区の区画 道路の整備済み延長と整備率		315 (9)	—	—	—	—
②							
	(説明)			—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ● D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ○ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ○ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) ・中央通線等の都市計画道路の見直しについては県との協議や法手続きを適切に進めた。また市民説明についても関係地権者への通知に加え、説明会の回数を増加するなどして周知や意見を聴く機会を多く設けた。 ・都市計画審議会は5回開催し、都市計画道路の一部廃止、生産緑地の追加指定及び解除等を適切に行った。 ・道路整備については、用地買収、工事とも予算に応じて実施したが、老朽化対策など他の整備箇所を優先する必要性が生じたため、旧暫定逆線引き地区の区画道路の整備延長は目標に達しなかった。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) ・市街化区域、特に旧暫定逆線引き地区においては、引き続き良好な住環境の整備を図る必要がある。 ・市街地の開発が進んでおり、生産緑地の解除申請が増加傾向にある。 ・既存道路について、修繕や歩道の設置要望などが増加傾向にある。 ・商店街の活性化は、地域コミュニティの拡大と推進を図るうえでその必要性は非常に高い。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・生活道路及び都市計画道路とも、用地取得に係る地権者の理解や経費が必要となるため、優先順位を明確にして整備を進める必要がある。 ・計画の廃止や見直しについては、住民から意見を取り入れ、丁寧な説明と合意形成が必要である。 ・道路などの都市基盤の老朽化対策を計画的に進める必要がある。 ・道路整備の基本的な方針となる道路整備基本計画を、現状に応じて改訂する必要がある。

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☐ 重点化 ☐ 内容の見直し						
	(説明) ・計画的に事業を進めるため、用地買収や工事ヶ所の優先度を検討し、少ない予算で大きな効果が出る工夫をする ・都市計画審議会については、これまでどおり予算の範囲内で開催する ・整備計画については慎重に内容検討し、市民からの要望と理解が得られる変更にする必要がある ・商店街を活動、支援することは、商店の維持活性とコミュニティの形成を図るうえで必要は非常に高い						
行政と市民の役割分担	○Ⅰ 行政の関与(役割)を拡大 ●Ⅱ 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○Ⅲ 市民の関与(役割)を拡大						
	(説明) ・市は、地域の実情に応じたまちづくりや市街地整備を進めるとともに、先進事例の調査やコスト削減に向けた工夫、また行政・商店のイベント情報の発信を行う。また、計画策定や工事等の実施にあたり、地域住民の意見を聴く機会を設け、地域住民と連携・調整を図る。						
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名		総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
			H27決算	H28決算見込			
	1 道路用地取得事業		185,236	133,587	5	5	現状のまま
	2 都市計画総務事務事業		509,216	420,224	4	4	現状のまま
	3 都市計画マスタープラン策定事業		11,800	3,790	5	5	H28で休止・廃止・終了
	4 道路改良事業		—	—	5	5	現状のまま
	5 商店会支援事業		—	—	4	4	現状のまま
	計 (単位:千円)		706,252	557,601	—	—	—
☐ 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載							
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【都市計画審議会】生産緑地の追加指定及び解除について、都市計画の観点をふまえた取組を求められている。						
	【緑化推進会議】朝霞市みどりの基本計画及び花とみどりのまちづくり構想(第4期)に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。 【景観審議会】朝霞市景観計画に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。						
部長の意見	本市は人口増加が続いており、開発需要もいまだ旺盛であることから、市街化区域において適切な土地利用を図っていくためには、都市計画等のまちづくりに関する制度を適正に運用するとともに、都市基盤の整備に関する各種計画を的確に定め、着実に実行していく必要がある。また、既存の都市基盤の老朽化対策も計画的に進めていく必要がある。今後は、都市計画マスタープラン等に基づくまちづくり施策の実施状況を確認するとともに、未改訂の道路整備基本計画の改訂作業を進める。さらに、旧暫定逆線引き地区の良好な住環境の整備については、今後より一層推進していくための方策を検討していく。						